

木及各灌木其ノ芽ヲ今出シタリ

第十一規ニ就テ

無智即チ怠慢ハ彼ノ過失ヲ引起シタリ 才能并ニ僻愛ハ渴望シタリ  
我々ノ幸ヒ或ハ災害ハ我々自身ニ就テ重ニ属スル チヨソ并ニ彼  
ノ缺乏并ニ富有ハ彼ノ不満足ニ原因ナリシ 我レ并ニ我が父ハソレ  
ヲナストチ一致セザルナリ チヨソ并ニ我ハ非難セザリシ 男并ニ  
彼ノ子息ハ此所ニ居ザリシ 彼并ニ我ハ過失シタリ或ハ彼ハ過テア  
ル或ハ我ガアル 我并ニ彼女ハ賞與ニ迄權利ヲ與ラレシ 或ハ我ハ  
賞與ニ迄權利ヲ與ラレシ 彼ノ女ガアル汝ハ非難セズ我ハアラズ  
英敏ノ熟練ヲ有スル爲メニ或大ナル富ヲ集ルヲメニ 甚人民高慢ナ  
ル尤モ多クノ人民ガ助ケル 驕慢 大望 或ハ慾望ハ多ク衰頽ヲ導  
ク價ナキノ苦難ハ彼教員ニ於テ惜マレシ

第十二規ニ就テ

彼ハ彼ノ徳義ヲ浪費セズ 而シテ彼ノ教ヲ怠リナサヌカ 彼ガ官府  
ニ撰ハレシ併シナカラ彼ハ勤メサリシ學生ハ懶惰デアリシ 而シテ  
彼ガ拙ラザルナラン彼ハ早ク爲ストニ話シタリ 而シテ彼ハ其所ニ  
時ニ於テ有タルナラン マリーイハ早ク爲ストヲ告タル所デ彼ハ其所  
ニ有タルナラン 彼ハ病ナリシ而シテ彼ハ其ヲ爲シ能ハザリシ 或  
ハ病デ有所デ彼ハ其ヲ爲シ能ハザリシ 少サリヤムハ彼教ヲ學フト  
チ得 併シナカラ彼ハ學ハザリシ 彼等ハ彼自身ニ於テ往キ并ニ入  
込タメニ他ノ者ヲ受ズ 我ハ感ゼン併シ其故ニ我ハ其ヲ受サルベカ  
ラズ

第十三規ニ就テ

我等ハ其ガ彼ナリシトチ知ラザリシ 其ハ彼女テ有リ得ザリシ 其

ハ彼ト怒リテ有ル所ノ我デ有ザリシ 彼等ハ我デアルベク其ヲ信セシ 我ハ彼デ有シナラバ我ハ全シク爲シタルナラン 我ハ彼デ有ベク其ヲ理解セリ 彼ヲシテ誰ヲ彼ガ得ルカナ有シメヨ 其ハ書簡ヲ書シタル所ノ我デ有シ 誰ヲ彼等ガ有ルコトヲ彼ニ考ナスヤ 其ハ有リシト汝ガ考シ所ノ其ガ彼デ有ラズ

第十四規ニ就テ

各ノ人ハ彼ノ持前ヲ感覺ニ就テ決定セサルベカラス 我々ノ各ハ彼ガ望ミタル如ク最多ヲ有ス 汝ノ各人ヲシテ彼ノ持前ノ職業ニ注意セシメヨ 前ニ來ルベク用意有ル所ノ此等 我ハ汝ガ命シタル所ノ各物ヲ爲シク其ハ話シタル所ノ彼デアリシ ユニオンハ彼ガ前ニ爲シタル所ノ全シ誤リヲ犯シタリ 亞弗利加ヨリ持テ來リシ 左様ニ惡烈ニ見ユル所ノ獅子 是ハ彼ガ犯シ得ル所ノ價ナキ誤リナリ 汝ノ

父ナル所ノ我ハ從順ナルベケン 示談ニ就テ汝ノ朋友デ有ル所ノ我ハ來レ 彼ハ彼ガ注意シタル所ノ人民及ヒ習慣ヨリ多クヲ學ビタリ アレキカンダーハ世界ニ向テ見タル所ノ最大ナル勝利デアリシ 彼自身ノ注意ヲ取り得ル所ノ彼ハ一ノ補助ヲ望マズ 盲目デ有ソ所ノ彼ガ是ヲ見ルタメニ感シタリ 彼ノ感覺ハ稀ニ見ラル、ノ如ク斯ノ如クナリシ

第十五規ニ就テ

人民ハ彼ノ權利ヲ放擲セザラン仲間ハ彼等ノ現況ニ於テ一致セズ 社中ハ其仲間ノ二人ヲ放逐シタリ 議員ハ其報告ヲナシタリ 陪審官ハ彼等ガ決斷ニ於テ一致スル迄禁止スルナラン 評定官ハ彼等ノ説ニ於テ全意シタリ 何處ニ會合ハ其集會ヲ保持スルナランカ、此ノ智慧ニ於テ判決ハ別ニ決斷シタリ 軍勢其退軍ヲ續ケシ 政府ハ

彼偏頗心ヲ制止スルナラン 長官ノ新公會ハ其官吏ヲ撰ミ又議事ハ此ノ次ノ會議ニ於テ事狀ヲ立ルナラン 聽衆ハ拍采ニ俟テ彼等ノ適用ヲ表シタリ

第十六規ニ就テ

信實及尊敬ハ彼等ノ賞與ニ就テ滅セラレ能ハズ 自愛ノ愛及結合ハ彼等ノ會合ノ生活ナリ 汝及ヒ汝ノ遊伴ハ汝ノ教ヲ學ブナラン 彼及ヒ我ハ我等ノ教師ヲ敬フ 予エームス及ヒ又彼ノ兄弟ハ彼ノ教ヲ稱讀シタリ サラー及ビチヤイロット彼ノ書籍ヲ失ナハザリシ 各ノ植物各々ノ花及各ノ蟲ハ其造物主ノ智慧ヲ現ハス 汝ノ兄弟及我ハ我等ノ職業ヲ注意セサル可カラズ

第十七規ニ就テ

公道及ヒ信實ハ彼ノ天性ヲ變スルヲ得ルヤ 人或ハ他人ハ彼ノ請求

ヲ廢棄セサル可カラズ 予エモン又ハウヰリヤムハ彼社中ト共ニ我等ヲ助ルナラン 時計并ニ鎖ハ曾テ其持主ニ返還セラレザリシ 獅子又ハ虎ハ衝セニ彼首ヲ撃キ得カラン 汝ハ我牝牛又ハ我牝牛ヲ見タルヤ 其ハ牧場ヲ徂フタリ 娘又ハ少年ハ彼ノ教ヲ知ルト見エサルナラン 又ハ娘ハ彼ノ教ヲ知ラヌ少年モ彼教ヲ知ラズ

第十八規ニ就テ

予エモン及ヒウヰリヤムハ父ハ彼等ノ品行ニ就テ咎ムル又ハ予エモン及ヒウヰリヤムノ父ハ彼等ヲ咎ムル等ナリアタムハケイン及ヒエヘルノ父デアリシ 又ハケイン及ヒエヘルノ父 我ハウヰリヤム并ニチヤイレスハ書籍ヲ見ザリシ スミッスハ會社ノ店閉ラレタリ 彼等ハ英吉利女王ノ宮殿ハ拜觀ヲ濟シタリ 第二エドワート王ノ死去ハ人ヲ擊動シタリ ルイ十四世ノ權威ハ甚廣大ナリ 汝ハ曾テ大虚人ナ

ルギヤクノ驚クベキ危険ヲ讀ミタルヤ プラウソ及ギモンノ家ノ係  
リ合ヒ持主ニ依テ滿カレシ ソクヲテス言ハプラト一及ヒゼノホッ  
ン 事業ニ於テ記載カレタリ ホレ一スノ詩ハ大ナル英才ヲ表ハシ  
タリ 女皇エリサベスハエセトキスノ死ノ一ニ就テ大ニ歎キタリ

第十九規ニ就テ

彼女我尙容易ニ用捨スルナラン 汝唯我ハ撰ヒタリ 我ハ此使ニ於  
テ遣ラル、所ノ者カ 我父ハ彼ノ全行スルタメニ我兄弟及ヒ我ヲ伴  
フタリ 懶惰デアル所ノ者及繁昌ハ尖ク責ムル 我ハ唯我ノ古キ友  
達ニ出逢タラン所ノ者カ 汝ハ彼デアルベク考ヒナス者カ 我及我  
ニ唯汝ハ過失ヲ以テ變ゼサル可カラズ 教師ニ惡事ヲ爲ス所ノ汝ハ  
罰セラレシ 汝ハ意味スル所ノモノヲ我ニ告ケヨ 汝及ヒ我ヲシテ  
斯ノ如キ會社ヲ避ケシメヨ 彼ハ彼ガ出逢フ所ノ誰人ニテモ話シセ

リ

第廿規ニ就テ

此ヲシテ汝及ヒ我ノ間ニ秘密ヲ置ケシメヨ 我ハ或人ノ書籍ヲ貸タ  
リ 我ハ誰ナルヲ知ラズ 誰ニ汝ハ使命能ヒタルカ 其ハ事情ヲ決  
斷スルタメニ汝及ヒ我ニ托セリ 汝ハ及ヒ彼ノ如キ場合甚ク相違ア  
リ 彼及ヒ我ノ外ニ其ヲ見タル者ナシ

(譯者云フ第廿一規ニ就テ例原書ニ無シ)

第廿二規ニ就テ

彼ハ荷物ヲ取ル彼ヲ見カリシヤ 何卒ノ子息ノ不在ヲ免セ 我ハ汝  
ニ就テ其ヲ爲スヲ試ミシ 彼等ノ彼女ニ就テ呼フヲ要セズ 我  
ハ趣意ニ注意スルヲ彼ニ聞キタリ 彼等ハ正ニ報道シタル規定ヲ  
聞キシ 我ハ汝ニ就テ理會シタル事情ヲ爲シ能ハサルヤ 小兒ハ這

入リテ滞留セヨ 彼等ハ既ニ這入リ滞留シタリ 火急ナル約束ヲシテ爲サシム可カラス 我ハ敢テ云フ彼ハ未タ家ニ歸ラザリシ

第廿三規ニ就テ

彼ハ後悔セザレバ免サレサラン 我ハ其雨降ラザレバ午後外ニ逍遙セシ 彼ヲシテ彼ガ落サレシノ注意ヲ採ラシメヨ 汝ハ我ヲ放擲セバ我詮方ナカラン 我ハ功績アリシヲ信シ總テ宜シクアリタルナラン 彼ハ欺騙者ナリセバ彼ハ看破セラレサル可カラズ 彼ハ竊取物ニ就テ恨マバ彼ハ証據立ラレサリシナリ 彼ハ資財ヲ掠取スルト雖モ彼ハ不幸ナラサリシ

第廿四規ニ就テ

彼ハ彼ノ談話ヲ終ル所ヲ集會ヲ開散ス 我ハ經驗ナシニ在ル所テ彼等ハ我ヲ欺ク 彼等ハ全意スルヲ拒ム所テ我ハ避タリ 小兒ハ失

フテ アル而シテ我ハ何所へ我ハ行カンヤ 汝ハ樂シク在ル所テ彼ハ何ヲ彼ハ知リタルカナ告ケ能ハサルナラン 起キヨ汝是レ最睡眠ヨ 嗚呼悽慘ナル我等ヨ企望ノ光ヨリ開キタルヨ 汝又フラタスナル我ノ子息ヨ 彼ハ彼自不在ナル所テ彼等ハ前ニ進ミ能ハサリシ

明治十九年十月廿六日板權免許  
同年十二月出版

定價金九十錢

東京府士族

譯述者

源綱紀

京都府下々京區廿六組都市町  
壹番戶寄留

京都府平民

出版人

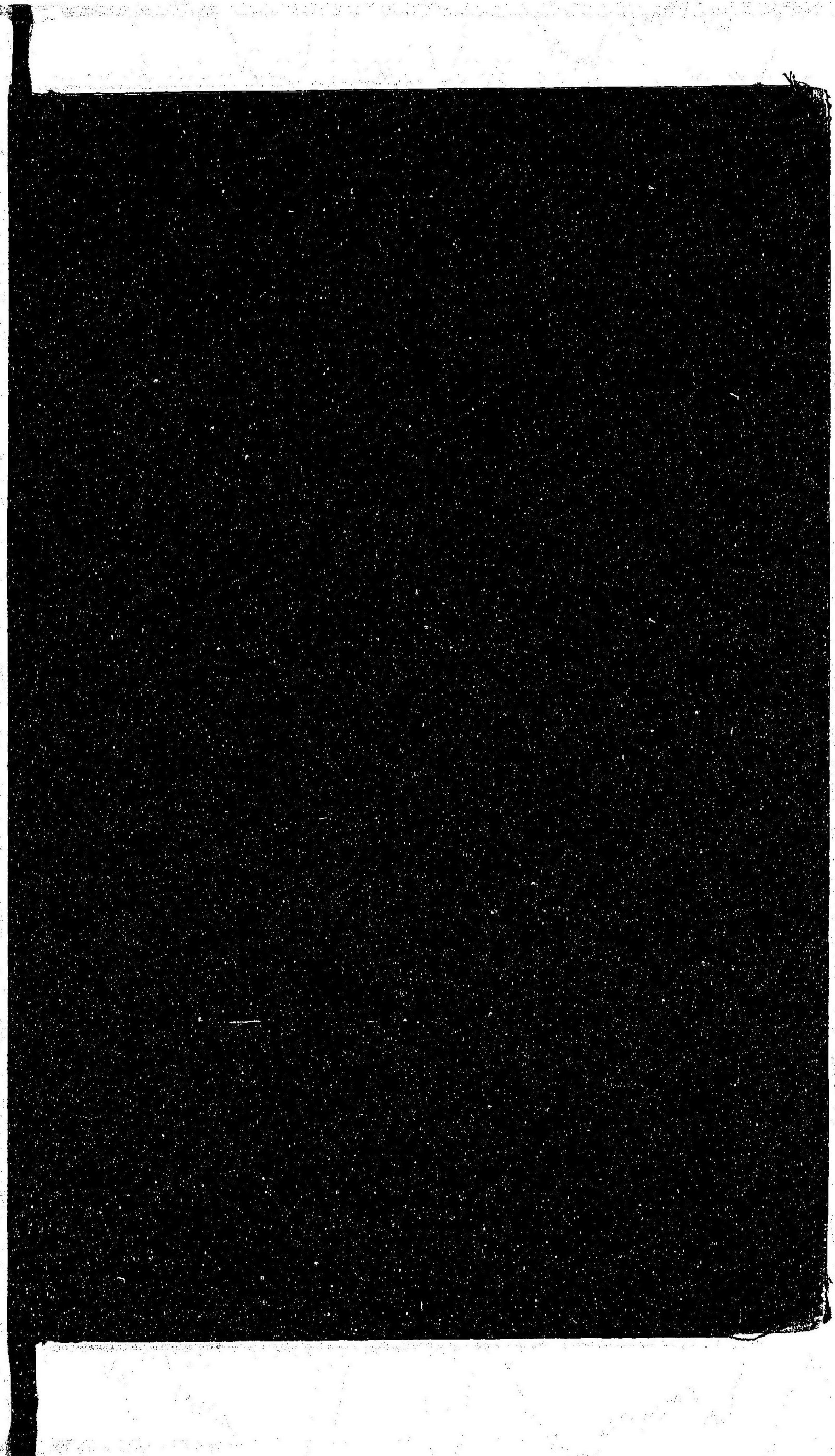
的場彦太郎

京都府下々京區十九組万壽寺町  
廿九番戶

諸國大賣捌書肆

26
6
261

[Faint, illegible text or markings on the right page]





083236-000-2

特27-86

英文典直訳

源 綱紀 訳

M19

DAH-0724



